

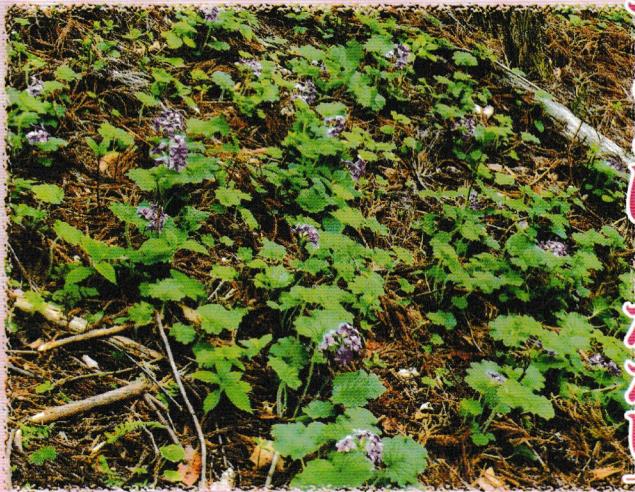
鳴神山の カッコソウ

それは、世界でここにしかない花。



和名 カッコソウ / 勝紅草
学名 *Primula kisoana* var. *kisoana*

絶滅危惧IA類（環境省第4次レッドリスト）
国内希少野生動植物種（種の保存法）



1 カッコソウとは？

カッコソウは、世界で鳴神山（群馬県桐生市・みどり市）のみに分布するサクラソウ科の多年草です。春になると毛むくじやらの茎を伸ばし、濃いピンク色の可愛い花を咲かせます。かつては普通に見られた植物で、満開の頃には谷間が一面ピンク色に染まったといわれています。しかし、現在では山でその姿を見かけることは稀で、絶滅の危険性が高まっています。

四国には見た目がよく似たシコクカッコソウが分布していますが、遺伝子の分析によって別の植物であることが分かっています。



日本のサクラソウ科には、他に似たものはありません。鳴神山を代表する植物といえるでしょう。

2 カッコソウを守るには？

平成24年度に国内希少野生動植物種に指定されたことで、無許可での採集・販売・譲渡は禁止されました。しかし、依然として継続的な保全への取り組みが必要です。

とにかく、これ以上減らさない！

残念ながら、現在でも盗掘は続いている。こうした行為を止めるためには、法的規制だけでなく、地域のわたしたちの关心と監視が大切です。



カッコソウだけでなく、周りの自然も守る！

カッコソウは、花粉を運んでくれる昆虫をはじめ、様々な生きものとのつながりの中で暮らしています。



カッコソウだけでなく、その周辺の環境、言い換えれば鳴神山の自然そのものを良好に保つ必要があります。

✿ カッコソウのくらし

カッコソウは早起きです。まだ他の植物たちの多くが眠っているような早春に葉を広げ始めます。そのため、本来のすみかは、春に地面まで十分な光が届く落葉樹の林だったと考えられています。

暖かくなると落葉の間から
葉を広げ、5月上旬頃
に花を咲かせます。

葉はますます大きく成長します。地中では地下茎が伸び、その先に新しい芽が出来ます。

タネや地下茎に
ついた冬芽は、
落葉の下で春を
待ちます。

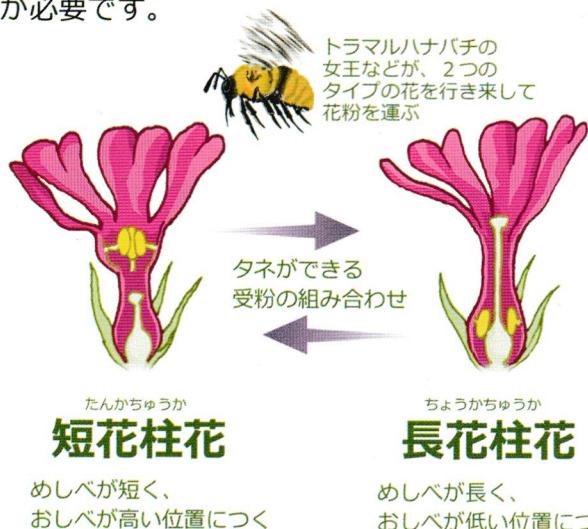
果実が成熟し、
実ったタネが地面
に落ちます。霜が降りる頃
になると、葉は枯れなくなります。



✿ カッコソウの花のひみつ

カッコソウの花には図の通り2つのタイプがあり、どちらの花を咲かせるかは個体のもつ遺伝子によって決まっています。

タネができるのは、異なるタイプの花の間で花粉が運ばれたときだけです。カッコソウがタネを作るためには、遺伝子が異なる株がいっしょに咲いていること、花粉を運ぶ昆虫が花を訪れることが必要です。

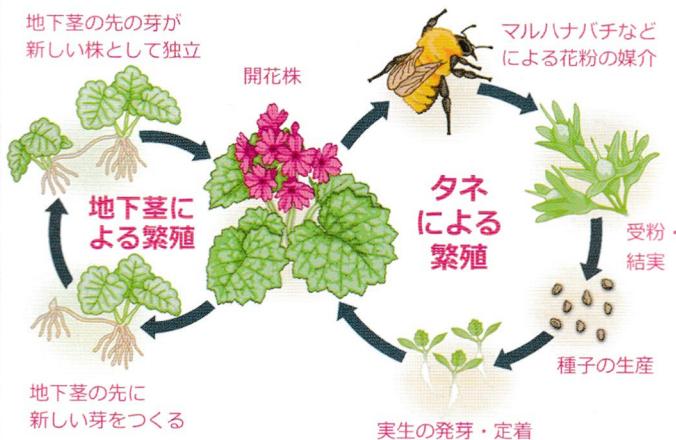


✿ 4 カッコソウはどう増える？

カッコソウは、タネと地下茎という2通りの方で増えます。

地下茎の先にできた新しい株は、親と同じ遺伝子をもつクローンです。効率が良い反面、親と同じ性質をもった子孫が誕生するので、特定の気候や病気などで全滅するおそれがあります。

一方、タネによる繁殖では、親と異なる性質をもつ子孫が生まれます。野外で永く生きていくためには、とても重要なプロセスです。

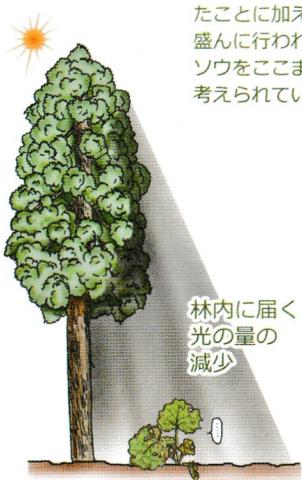


✿ カッコソウの厳しい現状

現在、鳴神山には800個体程度のカッコソウが生育しているとされています。しかし、そのほとんどは地下茎によって増えたクローンです。

異なる遺伝子をもつ個体の数はとても少なく、多く見積もっても数十にすぎません。それらは互いに離れ離れになってしまっているため、タネができるることはほとんどありません。

明るい落葉樹林が減少してしまったことに加え、園芸目的での盗掘が盛んに行われていたことが、カッコソウをここまで追い込んだ要因だと考えられています。



カッコソウという「世界でここにしかない植物」の保全を取り口として、地域の将来にどのような自然を残したいか、いっしょに考えてみませんか。